

Voice

ヴォイス
創刊号

大分県立芸術文化短期大学 サービスラーニング公式新聞

第1号/発行2010年1月10日



サービスラーニングが 「文科省プログラム」に

地域に貢献し、自信を育む

written by 「Voice」編集長・森本 愛里(1年)

大分県立芸術文化短期大学(中山欽吾学長)が、情報コミュニケーション学科を中心に全学生を対象に実施しているサービスラーニングが、文部科学省の「大学教育推進プログラム」に選ばれた。

これにより平成21年度から3年間、同省から財政的支援を受ける。学生の自信を養成し、生涯にわたる地域への貢献を育むため、充実した取り組みと情報発信を行う方針だ。

このサービスラーニング新聞『VOICE』は、その一環として創刊された。

多くの人にとって「サービスラーニング」という言葉は、聞き慣れないものだろう。

大学での学習と地域で行う奉仕活動を組み合わせた体験学習だ。ただ活動するだけではなく、そこから学び、自分に何が必要なのかを考え、アイデンティティを確立する。それが課題である。

「体験をスキルに変えるナラティブ能力の養成」「サービスラーニングを中心とした自己の物語を探し創り発信する能力の形成プログラム」。

これが具体的な獲得目標だ。

『Voice』は学生たちの体験報告、地域の人々の声を取り上げる。個人と社会の関わりが薄れつつある現在、私たちの地域活動への持続的な関心を喚起していきたい。



意義深い夏の体験

written by 佐藤 明日美(1年)

7月23日の夜は「SAEMON23」だ。大分市・鶴崎商店街一帯を歩行者天国にして行われる地域の行事。第1回から参加の芸短大からは、100人以上の学生が参加した。

芸短大生によるプログラムは、昨年までのSAEMONダンスに加え、和太鼓サークル、出店参加、鶴崎〇×クイズ、早飲み早食い大会、ダンスサークル、小学生と一般市民のダンス、総踊りと盛りだくさん。企画運営チームは、今年のSAEMONのテーマ「参加と協働」を実現できる

ように、事前に地元の人たちとの意見交換を活発に行なった。

わたしはSAEMONダンスに参加した。国指定重要無形文化財・鶴崎踊りの「左右衛門」のリズムを元に、専攻科音楽専攻の学生が作曲した曲に、ダンスサークルの学生が振り付けした。鶴崎の伝統と文化に触れ、地元の人との合同練習もあり、交流も深まった意義深い夏の体験だった。